

経営比較分析表

神奈川県 座間市

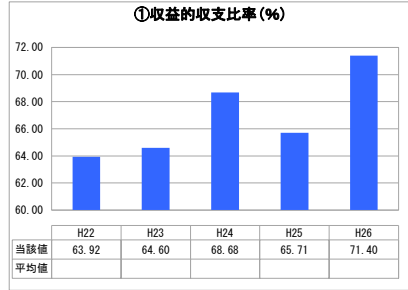
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Aa
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	98.34	95.02

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
129,767	17.57	7,385.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
126,732	12.01	10,552.21

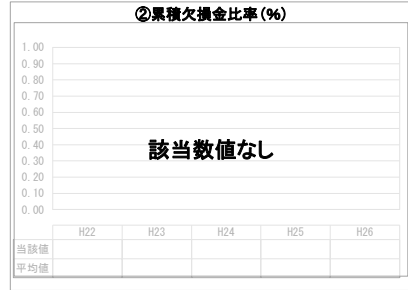
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

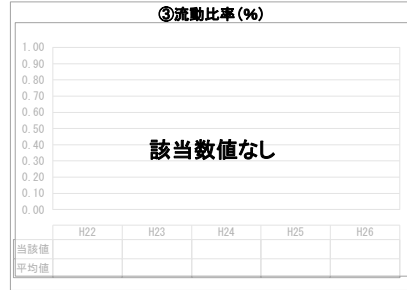
1. 経営の健全性・効率性



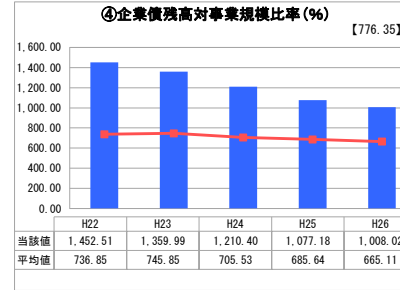
「単年度の収支」



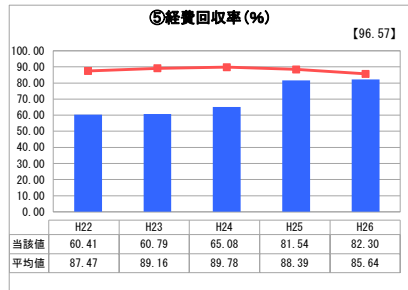
「累積欠損」



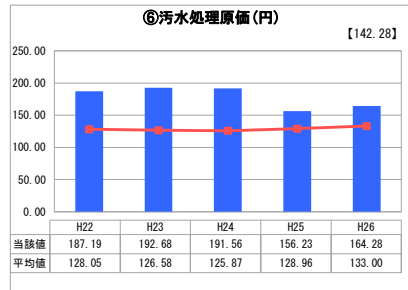
「支払能力」



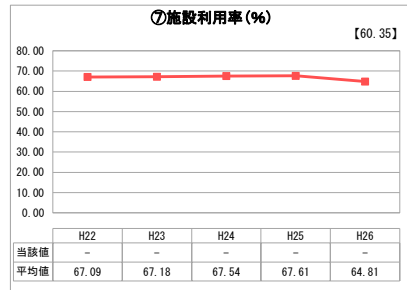
「債務残高」



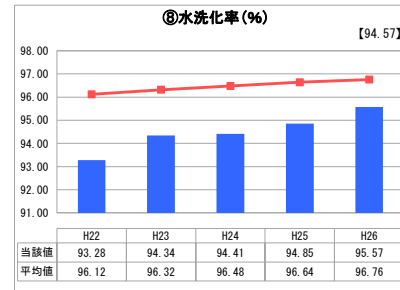
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

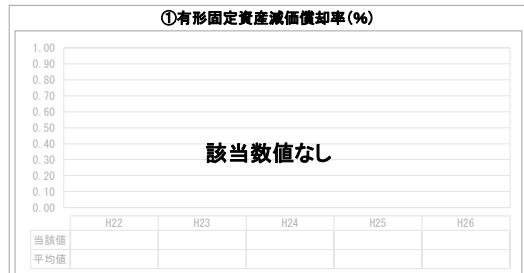


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

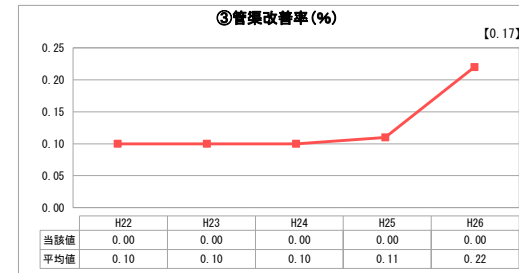
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、近年、資本費平準化債の借入により改善傾向となっていますが、いまだに一般会計繰入金への依存が強く、経費回収率についても100%未満であり、適正な使用料収入の確保がされていません。

また、本市は類似団体と比べ、特に起債未償還残高が高く、多額の元利償還金により経営が圧迫されている状況が続いています。

なお、今後は起債残高の低下傾向により元利償還金が減少傾向になることが見込まれますが、下水道使用料も低下傾向となるため、厳しい経営状況が続くと予想されます。

2. 老朽化の状況について

本市の下水道施設は昭和48年度から整備を行い、布設した管渠が30年以上経過すると、破損の危険性が高くなるといわれています。

また、将来的に法定耐用年数を経過する管渠が増加することから、改築時期及び費用が集中してしまうため、長寿命化計画に基づく施設の延命措置を施すことにより改築時期及び費用の平準化を図ります。

全体総括

本市の下水道事業は将来的に厳しい経営状況が続くと考えられます。

平成28年度から下水道使用料の改定を行います。改定後の下水道使用料であっても経費回収率が100%未満であることが予想されるため、適正な原価及び使用料を見直し、健全な経営を目指します。

また、公共下水道の水洗化率向上のため、広報活動や未接続世帯への個別訪問等を行い、公共下水道への接続促進を図ります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。